

増毛町

原 俊之

1、増毛町の概要

1.1 増毛町の由来

増毛町の名前の由来は、にしんがむらがると海一面にカモメが飛ぶことから、アイヌ語で「カモメの多いところ」という意味の「マニユキニ」または「マシュケ」がだんだんと言い方が変わっていったことに由来している。

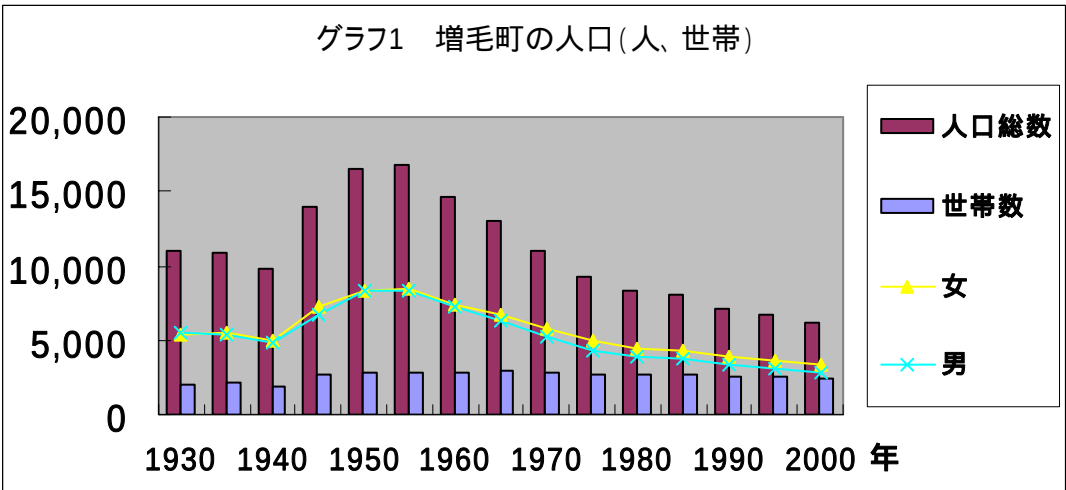
1.2 増毛町の歴史

増毛という地名が最初に歴史に登場するのは宝永3年（1706年）松前藩士・下国家がマシケ領を治めたときである。増毛は農業と漁業を基幹産業とするまちであり、宝暦増毛場所の時代から豊富な水産資源に恵まれ、にしん漁が多くの富をもたらした。また、市街地に近い沢地では、特産品であるリンゴやサクランボが栽培されている。明治時代になると、交通の要とし湾港、鉄道の整備が早期に進められ、特ににしん漁で栄えた最盛期には貨物輸送の拠点として賑わい、その繁栄の歴史は増毛駅周辺の旅館、店舗、造り酒屋、住宅など明治から昭和初期の建築物に今でも見られる。これら道内の自然や建造物などを後世に残そうと、北海道遺産構想推進協議会によって駅前の歴史的建物群と増毛小学校が北海道遺産として選定された。



出典：増毛町 HP

1.3 増毛町の人口

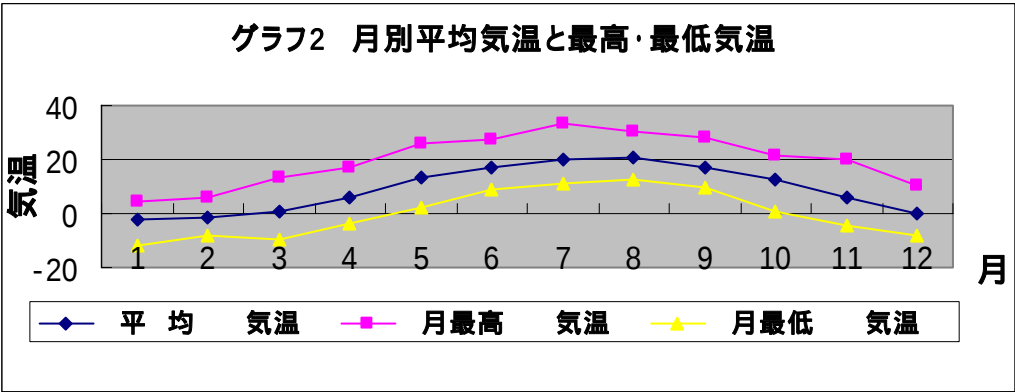


このグラフから分かることは、増毛町は男女の人数にあまり開きが無いことです。また、世帯数にもほとんど変化は見られなかった。唯一、人口総数は1950年代から急激に増加し始めているが、これはベビーブームが関係していると思われる。それ以降は減少の一途をたどっている。

役場の位置	(北 緯)	43 度 51 分 13 秒
	(東 経)	141 度 31 分 44 秒
東端	(東 経)	141 度 42 分 31 秒
西端	(東 経)	141 度 20 分 28 秒
南端	(北 緯)	43 度 40 分 55 秒
北端	(北 緯)	43 度 54 分 03 秒

図2 増毛町の緯度・経度

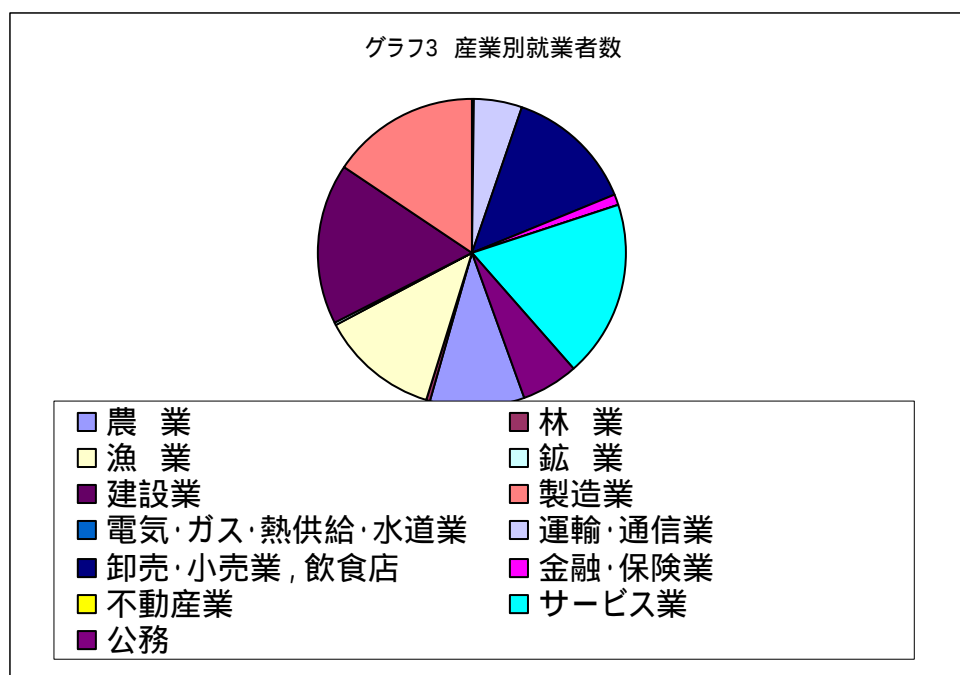
1.4 年間の平均気温と最高・最低気温の推移



このグラフからわかることとしては、増毛町は夏に温暖で、冬は寒冷であるということだ。平均気温をみると寒暖の差はあまりなく、他の北海道の市町村に比べて非常に過ごしやすい土地であると考えられる。また、夏の 7~9 月ごろまででもあまり気温が上がらないという過ごしやすいさからオートキャンプ場として有名なのも納得がいく。

2、増毛町の産業

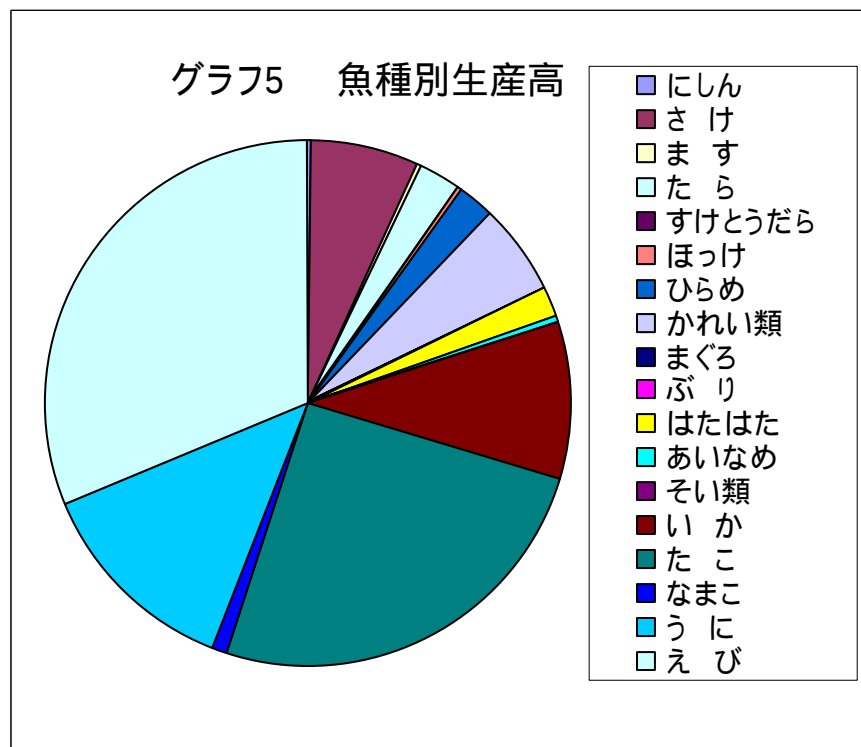
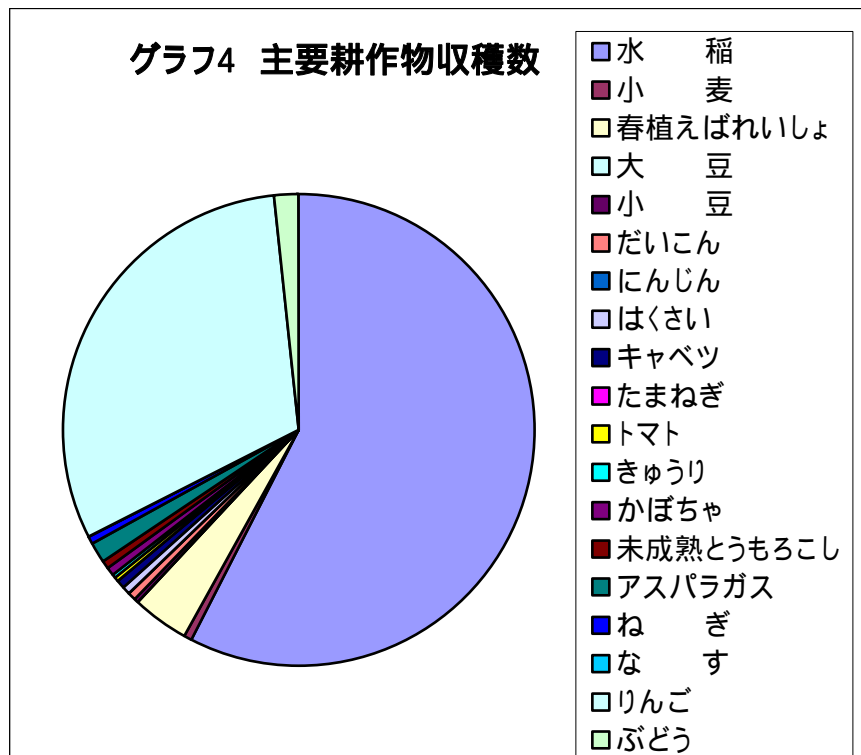
2,1 産業別人口



国勢調査（務省統計局）

このグラフからわかることは、農林漁業とサービス業の類がわりとバランスよく就業者がいることである。このことから、昔ながらの農業や漁業は若い世代へとちゃんと受け継がれていっているように考えられる。また建設・製造業も就業者が多いがこれらの職業もまた、明治時代に豊富な水産資源に恵まれた漁場で栄えた増毛で発達した造船業などに関係しているようだ。それとは反対に林業、鉱業はほとんど就業する人が見受けられない。

2,2 農林漁業



出典：留萌支庁 HP

これらグラフから読み取れることは、まず農作物を見てみると、増毛町では稲作が盛ん

に行われていることがわかる。また、大豆の栽培にも力が入れている。その他の作物は実際あまり作られてはいないようだ。次に漁種別生産高を見てみると、なぜか増毛町が栄えた源となったはずのにしんがほとんど取れなくなっていることがわかる。その代わりに、ますやさけ、たら、たこが多くとられている。とくに、さけやたこは増毛町の特産物として有名である。

2,4 特産品

主な特産物には、甘えび・日本酒「国稀」・サクランボ・リンゴ・さけ・たこのやわらか煮がある。とくに日本酒「国稀」は佐渡出身で、にしん漁全盛期の頃の明治時代に、天塩國随一の豪商と言われた本間泰蔵が始めた酒造りからうまれたもので、現在まで 120 年以上の歴史を重ねてきた。昔からの手法を変えることなく吟味された原料と清らかな暑寒の伏流水、南部杜氏の技が引き継がれている。増毛は昔から水の良いところで、北前船は必ずこの地で水の補給をして航海をしたと言われていて、現在も暑寒山麓から湧出る清らかで良質の天然水が酒造りには欠かせないようだ。

3 観光

主な観光名所・スポットとしては「リバーサイドパーク・岩尾温泉あったまーる・溪流の森・暑寒別岳」などが挙げられる。

・リバーサイドパーク

暑寒別川河口から上流へ約 800 メートルいったところにあり、暑寒別公園とつり橋（清流橋）で結ばれたスポーツやレジャーエリアである。テニスコートを始め、パークゴルフ場やサッカーもできる多目的広場などが整備され、センターハウス、バーベキューハウスでの食事也可以る。また、園内には美しい芝生や遊水路もある。



・岩尾温泉あったまーる

暑寒別天売焼尻国定公園の一画にあり、周辺の海岸線は、暑寒別岳の山塊がそのまま海に沈み込み、100 メートルを超す断崖絶壁が続く。お湯につかりながら、日本海に沈む夕日

を眺めることができる。泉質は単純酸性泉で、皮膚病、リウマチなどに効く。営業は 4 月から 12 月までで、宿泊することはできない。また、これらのほかにもオートキャンプ場が設置されているので夏は大勢のキャンプをする人で賑わっている。



・ 溪流の森

自然とのふれあいを気軽に楽しむことができる山岳公園で、「望岳の森」「せせらぎの森」「さえずりの森」「清流の森」の 4 つのゾーンに分かれ総延長 1,860m の遊歩道にはチップ材が敷き詰められ、水はけも良く、適度なクッションの役目を果たしてくれるので長く歩いても疲れにくい快適なウォーキングコースとなっている。



・ 暑寒別岳

増毛山地の主峰・暑寒別連峰の最高峰、暑寒別岳は標高 1491m。1990 年に指定された暑寒別天売焼尻国定公園内にあり、増毛側から望む暑寒別岳は山麓に原始林を従え、雄大な山岳美に奥深さを加えている。広大な樹海や高山植物の群落があり、暑寒別岳の山頂から東は大雪連峰、北は日本海という優れた景観を一望することが出来、晴れた日には日本海の中に利尻富士が浮かぶように見る。主峰暑寒別岳を中心に南暑寒岳（1296m）・郡別岳（1376m）・浜益岳（1258m）・雄冬山（1198m）・天狗岳（973m）と原始林に包まれた雄大な山岳美、広大な樹海や高山植物の群落が多くの登山者を魅了している。



参照 HP

増毛町役場 HP <http://www.hokkai.or.jp/mashike/index.html>

留萌支庁 HP <http://www.rumoi.pref.hokkaido.jp/ru-sinko/stat/ieindex.htm>